

## 上田市教育委員会 5 月定例会会議録

### 1 日 時

平成 24 年 5 月 16 日 (水)

午後 3 時 30 分から午後 16 時 58 分まで

### 2 場 所

上田市教育委員会 (やぐら下庁舎) 2 階会議室

### 3 出席者

#### 委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	城下 敦子
委 員	小市 正輝
委 員	山崎 順子
教 育 長	小山 壽一

#### 説 明 員

武井教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、倉島学校教育課長、浅野生涯学習課長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、佐藤スポーツ推進課長、児玉丸子地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、神林中央公民館長、山崎西部公民館長、池田城南公民館長、倉澤塩田公民館長、綿内川西公民館長、矢島丸子学校給食センター所長、大塚第二学校給食センター所長、宮之上第一学校給食センター所長、大滝上田図書館長、清水上田情報ライブラリー館長

あいさつ

・山崎委員あいさつ

## 協議事項

### (1) 上田市心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について(学校教育課)

資料1により倉島学校教育課長説明

城下委員

対象件数が187件だったとのことだが、この委員会は、どういうタイミングでどれくらいの回数で行われているのか。

倉島学校教育課長

これまでは年間7回開かれており、6月からは月1回程度のペースである。一昨年の対象件数は140件だが、昨年は187件と増えてきており、本年度は1回増やして8回の会議を予定している。

小市委員

この案では、特別支援教育関係から知的障害児学級を担当する先生方がやや多いが、情緒障害などの子どもを教えている担任の先生もおり、今後はそうした方面の人選も必要と考える。

また、いわゆる保健室の先生である養護教諭が関わる部分も多い。委員数の面からむずかしいかもしれないが、学校の生活のことについてよく把握しているため、できるだけ多くの養護教諭が委員に入ることがよいと思われる。

小山教育長

人数と領域が限定されているため、委員の枠を拡げることは難しい。実際には、心身障害児就学指導委員会が判定したからといって判定に従わせるのではなく、最終的には保護者と学校が協議し、どういう就学がその子にとってよいのかを話し合いながら就学先を決めていくことになる。時間のかかる仕事であり、専門家が入ったほうが望ましいことは分かるが、委員の人数の枠としてこのような分野からは何人といった規則性をもってやってきているので御理解頂きたい。

城下委員

従わせるべきものではないということだが、実際に昨年の187件のうち判定どおり

にならなかったことはあったのか。

倉島学校教育課長

昨年度の場合、187件のうち9件については、就学指導委員会の方向と違う形で最終的な就学方法を決定している。

山崎委員

委員会が187件を審査したのだが、審査の案件はどこから上がるのか。

倉島学校教育課長

いろいろなところから上がるが、就学前だと幼稚園・保育園から、また、学校からも状況をみて判断して頂きたいということで上がる。数的には、学校・幼稚園・保育園が圧倒的に多い。

廣川教育参事

学校教育課には特別支援教育の指導主事がおり、各学校を訪問して事前に観察しながら相談に乗り、最終的には学校や幼稚園から入ってくるという形をとる。

山崎委員

保護者からという場合もあるのか。

廣川教育参事

保護者からの場合もある。その場合も、幼稚園・保育園・学校・保護者と相談しながら進めることになる。最終的には保護者の了解を得て入級ということになり、保護者の了解が得られないものは県でも受け付けない。

全委員 了承

### (3) 学校評議員の委嘱について(学校教育課)

資料2により倉島学校教育課長説明

山崎委員

期数に上限はあるのか。

倉島学校教育課長

期数には特に上限はない。評議員は総数で189人いるが、そのうちの約半数86人

は今回新しく評議員となった。地域によってはどうしてもこの方の意見を頂きたいとか、候補者が限られるなどの理由で期数が多い方もいるが、総体的にはメンバーが大きく替わっている。

城下委員

男女比、再任の回数については今後検討することになっていたが、今回の内容では、元PTA関係の役員が多く7期8期と長い方もいる。前回からの検討事項について特に問題はなく現状でよいという結論ならば別だが、任期に対して上限を設けたほうがよいと私は考えている。元PTAの役員などが多過ぎると関係者の評価のみになってしまうため、問題点として挙がっている事項については改善していくことが引き続き必要ではないか。

倉島学校教育課長

男女比については、前回は男性67%女性33%、今回は男性64%女性36%である。3ポイント女性議員さんが増えている。前回の反省も踏まえ、校長会の際に男女比、期数の長い評議員等について再確認しながら選考してほしいとお願いしてきた。結果的には、若干改善されたが大きな改善には至らなかったのが実情である。次回以降も、選考の際には注意するようお願いしたいと考えている。

全委員 了承

## 報告事項

### (1) 史跡上田城跡保存管理計画及び整備基本計画について(文化振興課)

資料3により土屋文化振興課長より説明

小市委員

この計画の実現に向けて努力することだが、期限は定めていないのか。平成2年に当初の計画ができ、それから22年が経っている。計画は一部改正されたところもあるが、観光客の集まる場所でもあり一刻も早い整備が望まれる。

土屋文化振興課長

短期整備目標ということで、10年間を設定している。

#### 城下委員

この場所が公園として親しまれてきたことを大事にするということで安心した。史実に基づいて忠実にという部分と、公園として親しまれてきた部分をうまく調和させて、子育てするにもよい場所だと思えるような一帯にして欲しい。

#### 西田委員長

史跡としてどの時代まで遡るのか、何を保存するのか、現代の市民生活の中での位置付けはどうか。基本方針には「市民や観光客に」ともあるが、お金をかけて行うことでもあり、一番は上田市民の生活の中でどういう意味を持った施設なのかを明確にしておく必要がある。いいものを保存することは現代の我々の義務であるかもしれないが、それを現代の生活の中でどのように位置付けていくかを明確にしていく必要がある。

10年の目標とあったが、資金的にはどうか。

#### 土屋文化振興課長

史跡内を復元するとして文化庁に認められると、半分ほど国が負担してくれる。大まかな見積りの中では、櫓を建てることに約4億円かかる。市民会館の跡地になる武者溜りについても億という金額がかかってくる。全体で約10億円かかることになる。半分ほどは国から出してもらおうよう努力したい。その他に寄附を募るなどの方法も考えていきたい。

#### 山崎委員

資料のダイジェスト版は、誰に向けて出しているのか。

#### 土屋文化振興課長

300部つくってあり、これから関係者などに配る予定でいる。市民一般向けという形ではつくっておらず、市民一般には広報などを使いながら周知したい。

来月にはダイジェスト版ではない計画書が出来上がる。

#### 山崎委員

上田市がこうした大きな計画を立てて実施しようとしていることを、全く知らないという市民も多いのではないかと。素晴らしい資料ができていますので、関係者だけでなく多くの市民に伝えてはどうか。

#### 小山教育長

広報うえだにも4回ほど載せたが、なかなか周知が難しい。冊子製作にはコストもかかる。さらに周知するために、これから考えていく必要がある。

西田委員長

上田城跡は位置付けが非常に難しい。史跡であるけれども上田城跡公園であると考えていいのか。

土屋文化振興課長

区域の指定が史跡の範囲と都市公園の範囲とが重なっており、史跡の範囲は小さい。

西田委員長

公園という要素と保存すべき史跡とをはっきり切り分ける必要がある。子どもの遊び場や親子のレクリエーションの場でもあり、市民の生活の中ではこの施設がこういった位置付けになるかということをも市民にPRすることが必要ではないか。この計画は、あくまでも史跡の計画であり、史跡公園という市民生活と直結したものをどう整理して整備していくかということも示さなければならない。史跡も大事だが、今生きてる人間の生活環境を整備することも大事な市政である。

全委員 了承

**(2) 平成24年4月スポーツ関係市長表敬訪問者報告(スポーツ推進課)**

資料4により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

**(3) 平成24年度丸子文化会館自主事業について(丸子地域教育事務所)**

資料5により児玉丸子地域教育事務所長説明

城下委員

丸子文化会館は平成4年竣工から今年で20周年とのことだが、上田の文化会館は何周年になるのか。

神林中央公民館長兼上田文化会館長

開館して26年になる。

西田委員長

それぞれの事業の参加者数は概ねどれくらいか。

児玉丸子地域教育事務所長

1番と3番については、これまでの実績に基づくと8割程度の入場であるため、630席ぐらいで予算を立てている。ピアノリレーコンサートの昨年実績は128組138人であり、お子さんからお年寄りまで、ソロで弾く方から連弾をやる方、いろんな楽器とアンサンブルをやる方などさまざまである。

西田委員長

丸子文化会館にベーゼンドルファーを購入したことの見識の高さがうかがえる。上田文化会館のピアノもよいものだが、公の設備にきちんとしたものを置くことは、ある意味では地域の文化力のかさ上げになる。

全委員 了承

**(4) 行事共催等申請状況について(学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課)**

資料6により倉島学校教育課長、浅野生涯学習課長、土屋文化振興課長、佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

**<その他>**

土屋文化振興課長

- ・上田城跡の作事場(さくじば)の発掘調査現地説明会について説明
- ・博物館めぐりスタンプラリーについて説明

西田委員長

発掘調査は、確認して埋め戻すということか。

土屋文化振興課長

埋め戻し、記録保存という形となる。

神林中央公民館長兼上田文化会館長

- ・公民館だよりについて説明

城下委員

川西公民館で通学合宿を実施している。昨年はなかったとのことだが、一昨年はどの

くらいの人数が参加したのか。

綿内川西公民館長

昨年は、公民館建て替えのため実施できなかったが一昨年は30人の定員に対し22名の参加だった。その前年は30人を越えている。

城下委員

親として見ると、このような機会は非常に大事で貴重な体験だと思う。4、5、6年生の異年齢の子どもたちが一緒に3泊4日の共同生活を体験することはなかなか出来ない。川西公民館のノウハウを他の公民館にも広めてはどうか。

綿内川西公民館長

この事業は学校の協力が必要であり、校長・教頭にも負担がかかる。また、献立や食事づくりは食生活改善推進協議会の皆さんについて教えて頂き、夕方から夜にかけては青少年育成指導員に職員と一緒に泊まって頂くなど、学校と地域の協力を得てやってきた。平成10年から実施しているが、地域と学校の協力があって今までやってこられたものだと思う。また、中学生にも声を掛け、部活が終わった後に公民館に来てもらい中学の様子や部活の話聞く、宿題を見てもらうなど、中学とのつながりもあり、川西地区全体でできている行事である。

全委員 了承

閉会